

中長期的な発掘調査計画について（案）

1 長期計画（計画期間 15 年間） 第 I 期：2017 年度～2031 年度

『史跡加曾利貝塚総括報告書』第 7 章第 8 節「今後の課題」で提示した課題に取り組む。

（1）地形測量と過去の調査地点の明確化

- ア 恒久的な座標基準点の設置
- イ 現在の微地形を表現したより精度の高い地形測量図の作成
- ウ 地中レーダー探査による過去の調査地点の把握

（2）旧調査地点の再調査と計画的調査の実施

- ア 中長期的な発掘調査計画の策定
- イ 旧発掘区の想定地点を含めた数十 m 四方程度の平面的発掘

（3）貝層調査・分析方法の確立

- ア 貝層に含まれる鳥獣魚骨や貝類の分析および自然科学分析の実施体制の確立
- イ 現在露呈・展示されている貝層断面の再調査（分層）による堆積構造の把握
- ウ 堤状貝層を構成するひとつひとつの堆積層を平面的に把握する手法の検討

（4）集落構造や遺跡の形成過程の解明

- ア 各時期の集落構造と範囲の解明
- イ 北貝塚・南貝塚の貝層の形成過程の解明
- ウ 堤状貝層内の窪地・包含層・遺構の形成過程と年代の解明
- エ 東傾斜面下部の遺構・包含層の広がり解明
- オ 低湿地層の調査による低地の利用の解明と古環境復元

（5）その他

- ア 史跡整備に伴う発掘調査を長期計画に位置付ける。
- イ 現地説明会や速報展の開催などを通じ、発掘調査の成果を社会へ還元する。
- ウ 人材育成や発掘体験の提供など、発掘調査の機会の多角的な活用を図る。
- エ 第 I 期長期計画に基づく発掘調査が終了した後、調査成果の総括を公表する。
- オ 第 I 期長期計画の調査成果を検証しつつ、第 II 期長期計画を策定する。

2 中期計画（計画期間：3 年間） 第 I 期長期計画を 5 期に区分

長期計画に基づき、市の実施計画（計画期間：3 年間）に位置付けで事業を推進する。

（1）第 1 期（2017 年度～2019 年度）

- ア 地形測量と過去の調査地点の明確化
 - （ア）恒久的な座標基準点の設置

2016（平成 28）年度に座標基準点を設置し、2017（平成 29）年度からの調査着手に先立ち、新たな地区設定を行った。

(イ) 現在の微地形を表現したより精度の高い地形測量図の作成

2017（平成29）年度にレーザー測量を実施し、詳細な地形測量図を作成した。

(ウ) 地中レーダー探査による過去の調査地点の把握

2017（平成29）年度から早稲田大学による地中レーダー探査に着手している。

イ 旧調査地点の再調査と計画的調査の実施

(ア) 中長期的な発掘調査計画の策定

2018（平成30）年度から加曽利貝塚調査研究部会の指導の下、検討に着手している。2019（平成31）年中に第I期長期計画を策定する。

(イ) 旧発掘区の想定地点を含めた数十m四方程度の平面的発掘

2017（平成29）年度から旧発掘区を含めた25m四方の平面的な発掘調査に着手している。

ウ 貝層調査・分析方法の確立

エ 集落構造や遺跡の形成過程の解明

オ 生産活動や社会の解明

カ その他



第2期中期計画での着手に向け、
内部検討を進める。

(ア) 発掘調査は埋蔵文化財調査センターが担当する。

(イ) 発掘調査が終了した後、3年以内に報告書を刊行する。

(2) 第2期以降（2020年度～）

ア 引き続き加曽利貝塚調査研究部会を設置して審議を行い、2019（平成31）年度中に千葉市史跡保存整備委員会で中期計画を決定したい。

イ 第2期以降の中期計画について、以下の調査を検討している。今後、史跡整備のスケジュールを踏まえながら、優先順位を決め、調査範囲の選定を進めていきたい。

(ア) 南貝塚中央窪地・集落構造・貝層形成の解明

(イ) 北貝塚中央広場・集落構造・貝層形成の解明

(ウ) 東側低地（通称舟着場一帯）の解明

(エ) 南東側低地（支谷）の解明

ウ 年代測定などの自然科学分析をはじめとした関連分野と連携して調査を進める。

エ 調査研究体制の整備状況に応じて各期の計画内容を見直す。